

◆今期間のポイント

<主要じょう乱の概要>

- 29日は、低気圧がオホーツク海を北上し、前線は日本の東を東進する。高気圧が華中から東シナ海へ移動する。
- 30日は、気圧の谷が北日本を通過し、高気圧が西日本付近へ移動する。
- 31日は、高気圧は日本の東へ移動する。前線が東シナ海から日本の南へのびる。
- 4月1日から2日は、低気圧が日本の南から日本の東へ進む。

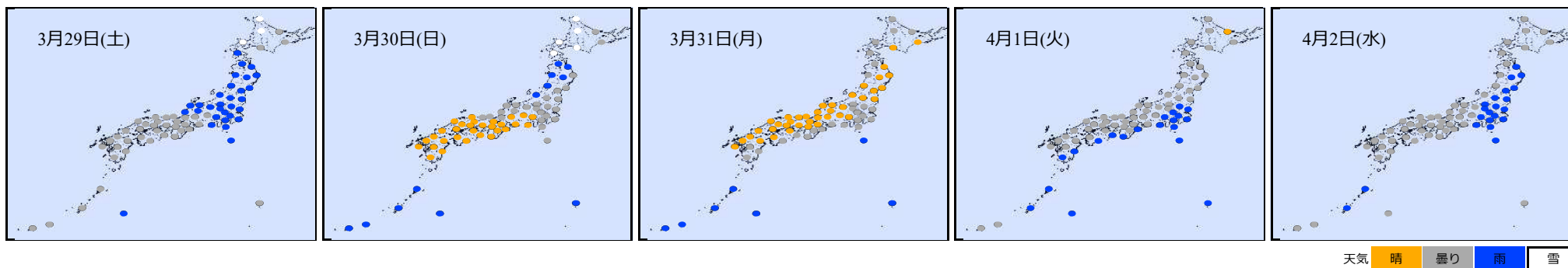
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

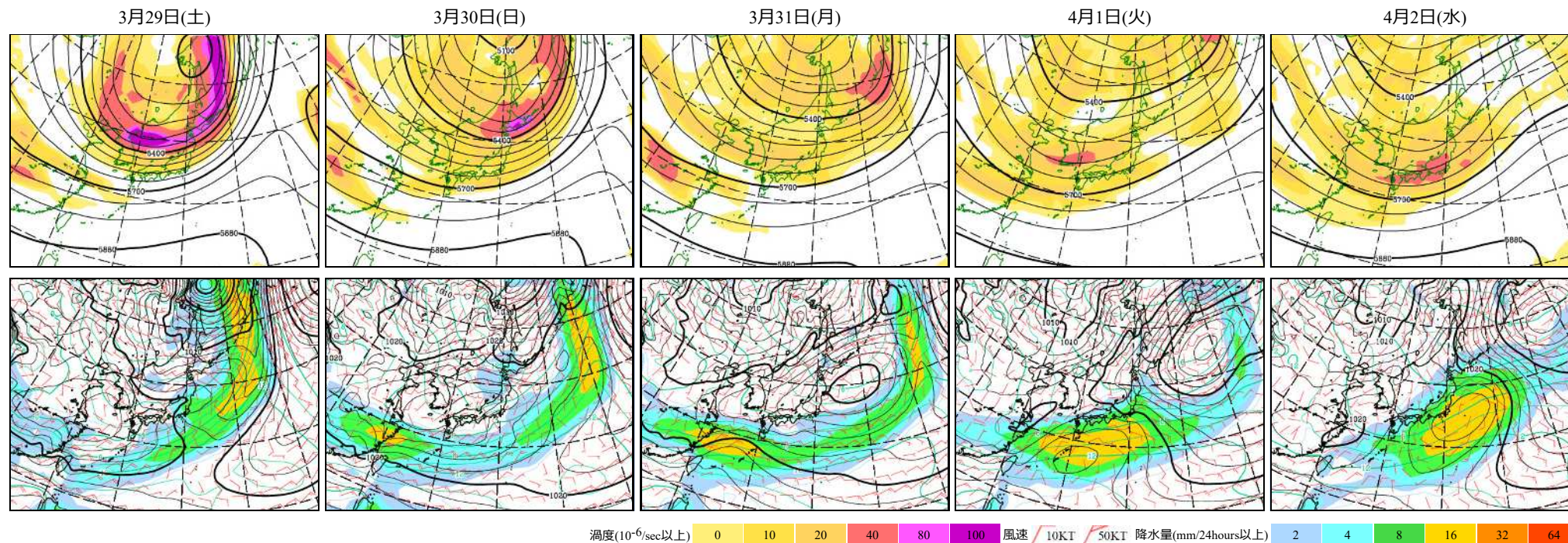
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

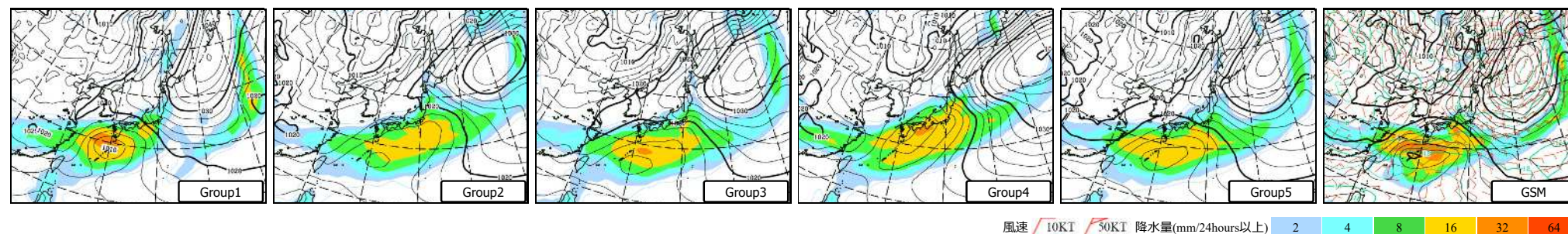


- 北日本は、曇りや雨または雪の降る日が多い。
- 東日本と西日本は、曇りや雨または雪の降る日が多いが、30日と31日は晴れる所がある。
- 沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆4月1日のENSクラスター平均(グループ1~5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料 (ENS) は、30日は北日本付近のトラフが深くなり、北日本を通過する気圧の谷が明瞭となったことに対応して、北日本付近の降水確率が大きくなった。また、4月1日から2日に日本付近へ進むトラフが深くなり、日本の南から日本の東へ進む低気圧が明瞭となった。
- 各モデルともに、30日は低気圧が北日本付近を通過し、31日は高気圧が本州付近から日本の東へ移動する予想はおおむね揃っている。1日から2日は、日本の南を東進する低気圧の予想にモデル間の差があり、降水域の北への広がりにはENSやGSMが大きい。
- 期間の終わりはスプレッドがやや大きく、沿海州付近へ進むトラフの深まりについては不確実性がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。